

課題名 救急外傷全身CTにおける重症度評価トリアージシステムの開発事業化および海外展開

代表機関：株式会社fcuro

分担機関：大阪急性期・総合医療センター／京都大学医学部附属病院

全研究開発期間：2025/8/27～2027/3/31予定

背景・目的：医療現場における緊急CT読影支援

- 救急医療において、防ぎ得た外傷死と呼ばれる、適切な処置を施せば救命できたと推定される死を減らすことは大きな課題となっている。その原因は、救急医療現場における初期診断の遅れであることが多い。
- 本事業では、救命医療現場における防ぎ得た外傷死を減らし、どのような地域や時間帯においても迅速な診断を実現させるための、緊急CT読影支援「重症度評価トリアージAIシステム」の社会実装をめざす。

取り組み・成果：複数医療機関への研究導入並びに臨床効果検証の開始

- 複数の医療機関に本システムの導入を広げ、大阪急性期・総合医療センターにおいては、本システムの臨床効果検証を開始している。検証の中では、救急搬送された患者の救命につながった事例が出ている。

今後：医療機器承認の取得並びに国内・海外展開を想定したマイルストーンの設定

- 本事業終了時まで、製品の医療機器としての効果を検証を行い、医療機器承認（クラスII）の取得準備を完了させる。
- 国内展開に向けた取り組みの推進、並びに海外展開に向けた、マイルストーンの設定を行う。

概要イメージ

全身CTを迅速に解析

異常発生箇所

